# 新任部長紹介



呼吸器科部長 で むら まし き 出村 芳樹

卒業年次/平成2年 資格/日本呼吸器学会認定医・総定呼吸専門医・指導医、日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本アレルギー学会専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、医学博士(福井医科大学) 趣味/音楽鑑賞

# 新任副部長紹介



卒業年次/平成14年 資格/日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

# 行事予定のご案内

### 地域がん診療研修会の案内

日 時/平成25年11月14日(木) 19:00~

会 場/福井赤十字病院 栄養管理棟3階•講堂

演 題/地域緩和ケアプログラムの有効性と最近の緩和ケアのエビデンス 講 師/聖隷三方原病院 緩和支持治療科部長 森田達也先生

### 呼吸器研修会

日 時/平成25年11月15日(金) 19:45~

会 場/福井赤十字病院 栄養管理棟3階•講堂

演題/成人喘息の診断と治療

講 師/福井大学医学部 第三内科教授 石塚全先生

### 地域医療連携交流会

日 時/平成25年11月22日(金) 19:00~

会場/サバエ・シティーホテル ※詳細は後日ご案内いたします。

先生方のご参加をお待ちしております。参加申込みは 地域医療連携課(TEL 0776-36-4110)までお願いします。

# 開催報告

# 病診連携医会

7月11日(木)に平成24年度病診連携医会を開催しました。循環器料の皿澤克彦副部長より「心不全の取り組み」について、外科部長の土居幸司部長より「肝臓外科の最新動向」について話題提供させていただきました。院内外あわせ89名の先生方にご参加いただき、大変盛会に会を終えることができましたこと、心よりお礼申し上げます。ご参加いただいた先生方、ありがとうございました。



### 連携実務担当者情報交換会

8月20日(火)に当院から 転院実績のある連携医療 機関の連携実務担当者 様と当院の看護師、MS Wとの連携実務担当者情 報交換会を開催しました。



院内外あわせ99名の方にご参加いただき、話題提供、グループ ディスカッションを行いました。今後のよりよい連携に繋がる活発 な意見交換ができましたことお礼申し上げます。ご参加いただい た皆様、ありがとうございました。

### 福井県緩和ケア研修会

9月15日(日)、16日(月)の 両日に、緩和ケア研修会 が開催されました。この研 修会は日本緩和医療学 会等が開発した「医師に 対する緩和ケア教育プロ



グラム(PEACE)」に沿ったものです。参加者は緩和ケアに関する 理解を深めるとともに、緩和ケアを必要とする患者さんのQOLの 向上のために熱心に耳を傾けていました。

# 地域医療連携課

受付時間/平日 8:00~18:30 土曜 8:30~12:30 TEL 0776·36·4110(直通) FAX 0776·36·0240(専用)



# 福井赤十字病院

http://www.fukui-med.jrc.or.jp e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第48号発行 平成25年10月 福井赤十字病院



# Partnethal C 福井赤十字病院連携通信 Japanese Red Cross Fukui Hospital パートナー vol. 048

ボランティアさんの作品

# Topics News

# てんかん診療体制が充実しました!

てんかんは100-200人に1人罹患しており、神経内科の中では高頻度の疾患です。入院に関しても神経内科では脳卒中に次いで多くみられます。てんかんは、小児期の発症が多いのですが、いったん頻度は減り、高齢になると再び頻度は増加します。

頭部外傷、脳卒中、脳炎、脳腫瘍などと関連して起こってくることもありますが、認知症だけでも てんかんのリスクは上昇します。

高齢化が年々進行しているご時世ですので、ますます患者様は増えていくと予想され、高齢に

なりますと、けいれんせずに、短時間ぼーっとするような発作もあり見過ごされている場合も多いのが現状です。

てんかんの診療には、病歴の取り方、脳波判読が非常に重要 で、薬剤の調節にしても専門的な知識が必要になる場合も多い と思われます。

当院神経内科において、てんかん学会専門医である今村久司医師が本年4月より赴任してまいりました。なお、てんかん学会専門医は福井県では現時点では今村医師1名のみで、脳波専門医は精神科以外では高野部長と今村医師のみです。



今村久司医師

# ╈ 福井赤十字病院

### 理今

人道・博愛の精神のもと、県 民が求める優れた医療を行 います。

## 基本方針 -

- 患者さんの権利と意思を尊重 し、協働して医療を行います。
- ■安全と質を向上させ、優し い医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね 備えた医療人を育成します。
- ■急性期医療・疾病予防・災 害時医療に積極的に取り 組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、 地域社会に貢献します。

# 肺癌術後連携パスをご存知ですか?



呼吸器外科 部長松倉 規

# 最近の話題



耳鼻咽喉科 部長 須長 寛

肺癌術後連携パス(以下、肺癌パス)は肺癌術後患者さんの術後経過観察を連携医の先生方と当科が連携して行ってゆくクリニカルパスです。

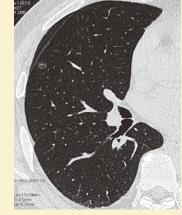
厚生労働省の指導のもと、県では平成20年3月に「第5次福井県保健医療計画」でパス導入を決定し、平成22年から順次、五大がん(胃・大腸・乳・肺・肝臓)にパスの適用を開始しました。平成24年の福井県がん診療連携協議会によるアンケートでは県内の約70%の医療機関がパスの存在をご存知で、そのうちの約70%でパスを適用しているとの結果でした。



# 《肺癌術後連携パス》

福井県の肺癌パスは、野口A・BとIA期に限って適用することになっています。

野口A・Bというのは小型肺腺癌の病理分類で、AからFまであり、A・Bは術後5年生存率が100%の予後良好なタイプです。術式は肺葉切除術(定型手術)でなく部分切除術(縮小手術)が選択されることが多く、術後合併症も少なくなります。また、最近では I A期の患者さんに



肺癌パス適用となった野口Bの肺 腺癌症例/CTで発見、8mm、部分 切除術、良好な予後が期待できます

も術後補助化学療法を行うことがありますが、福井県では IA 期の中でも化学療法を行わない患者さんのみに適用すること になっています。

以上から、術後合併症や再発などの発生頻度は比較的低いと考えられ、呼吸器を専門となさらない先生も適用しやすいのではないかと思います。必要時には当科で対応させていただくことは言うまでもありません。

# 《当科の現状》

現在、当科では連携医の先生方のご協力を頂き25例の患者さんに肺癌パスを適用しています。連携医療機関に定期通院している方、遠方の方、お仕事で忙しい方、高齢で通院に支障のある方の評判が良い印象があります。なにより待ち時間の長い(改善しなければならない問題ですが)当院外来への通院頻度を減らすことができるのは、患者さんにとってメリットと考えています。

# 《 今後の取り組み 》

少しでも診療連携がスムーズに進むことを目指し、当科スタッフが連携医の先生方のもとを訪問させていただき、パス適用 患者さんの周術期からの経過を報告させていただくことを検 討しています。

肺癌パスについてご理解とご協力をお願い致します。ご不明な点は当院地域医療連携課までお問い合わせ下さいますと幸いです。



※患者さんにお渡ししている資料です。

耳鼻咽喉科領域で最近取り上げられている新しい疾患、治療などをご紹介いたします。

# 1 耳科領域

### ①赤外線CCDカメラ

めまい症の診断には眼振所見が非常に重要です。注視眼振検査でも眼振の観察は可能ですが、前庭眼反射により眼振が抑制されるためフレンツェル眼鏡を用いた非注視眼振検査が有効です。最近フレンツェル眼鏡に赤外線CCDを装着し完全暗視野で眼振を観察できる装置が実用化されました。撮像がテレビモニターに拡大され

て映し出されるため眼振所見がとてもわかりやすく、また映像として録画記録できることも特徴です。赤外線CCDを用いた眼振検査は平成24年度から診療報酬点数表にも収載されています。



耳鼻咽喉科領域における

# 2 鼻科領域

#### ①好酸球性副鼻腔炎

慢性副鼻腔炎は広く知られた疾患で、感冒後に生じるような細菌性副鼻腔炎はマクロライド少量持続投与や鼻内副鼻腔手術で容易に治癒するようになりました。しかし、きわめて治りにくく術後再発が高率な副鼻腔炎が存在することがわかってきました。その副鼻腔炎は血中好酸球分画が上昇し、局所の鼻ポリープ組織内に好酸球浸潤が多数認められ、NSAIDに対するアレルギーや気管支喘息の合併が高率に認められるという特徴を示し、好酸球性副鼻腔炎と呼ばれています。まだ病態が不明で治療法が確立されておらず現在診断基準の作成が進んでいる段階です。

### ②舌下免疫療法

アレルギー性鼻炎は抗ヒスタミン剤の内服が治療の主体です。 しかし決して根治的な治療ではなく、また高度なアレルギー性鼻炎には薬物療法だけでは症状の改善に乏しいことが問題です。



以前から行われていた経皮的な減感作療法は治療期間が長いに もかかわらず頻回の通院が必要でした。最近欧米でも行われるよう になった舌下免疫療法は来年から本邦でも保険収載される予定で あり、在宅で減感作療法を行えるため従来の経皮的な減感作療法 に無い簡便性が特徴です。今後スギ花粉症やダニアレルギーに対し 広く用いられるようになると思われます。

# ❸ 口腔·咽頭領域

### ①HPV(human papilloma virus)感染

頭頸部領域の扁平上皮癌の中で中咽頭癌の一部、特に口蓋扁桃癌が放射線療法に著効を示すことが以前から知られていました。このことに関し、近年HPV(特にHPV16)の関与が報告されています。つまりHPVの感染を伴う口蓋扁桃癌はHPV陰性の癌よりも放射線療法が著効し、予後も良好です。同様にウイルスが関与する上咽頭癌(EBウイルス)は極めて予後の悪い癌ですが、なぜHPV陽性の口蓋扁桃癌で放射線治療が有効なのかはまだわかっていません。

### 4 喉頭領域

# ①NBI(narrow band imaging; 狭帯域光観察)とELPS (endoscopic laryngo pharyngo surgery; 内視鏡下咽喉頭手術)

咽喉頭の進行癌では嚥下や発声の機能を失うことが多く、やはり早期発見・早期診断が重要となります。近年電子スコープやNBIという内視鏡技術の発達により微細な表在癌の早期診断が可能になってきました。NBIとは特殊な観察光により粘膜表面の血管構築を観察する技術であり、これを用いることで癌に特徴的な血管走行異常を観察することができます。この技術により従来の内視鏡では見つけることが可きとなりました。そのような病変をminimally invasive surgeryとして内視鏡下手術(ELPS)で簡便に切除することが可能となり、今後咽喉頭癌の機能温存、予後改善が期待されています。

# 5 頭頸部領域

#### ①セツキシマブ(アービタックス®)

頭頸部癌領域で最近のトピックスは分子標的剤のセツキシマブが適応となったことです。セツキシマブはほとんどの頭頚部癌で発現している上皮成長因子受容体(EGFR)の働きを阻害する抗体です。放射線治療に併用する抗癌剤で長らくシスプラチンを超える薬剤が現れてこなかったところにシスプラチンと同等の治療成績を示したセツキシマブは、今後特に腎機能が低下した患者に対して有効な治療法として効果が期待されています。